

2026 年 8 月 31 日 全 7 頁

Indicators Update

2026 年 7 月 鉱工業生産

半導体製造装置の増産が引き続き押し上げ、4 カ月連続で上昇

経済調査部 エコノミスト ビリング 安奈

[要約]

- 2026 年 7 月の生産指数は前月比+0.1%と、コンセンサス（同▲0.7%、Bloomberg 調査）を上回り、4 カ月連続で上昇した。内訳を見ると、生産用機械工業や無機・有機化学工業などの増産が押し上げ要因となった。経済産業省は基調判断を「一進一退」に据え置いた。
- 先行きの生産指数は横ばい圏で推移する見込み。AI 関連需要などが国内生産を押し上げよう。ただし、中東情勢をめぐる不確実性は依然として残っており、原材料の価格上昇や供給不安、輸出停滞を通じた生産下振れリスクには引き続き注意が必要だ。
- 2026 年 9 月 7 日に公表予定の 7 月分の景気動向指数は、先行 CI が前月差+1.4pt の 117.9、一致 CI が同+1.6pt の 120.1 と予想する。この予測値に基づくと、7 月の基調判断は機械的に「改善」に据え置かれる。

図表 1：鉱工業指数の概況（季節調整済み前月比、%）

	2025年	2026年								
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
鉱工業生産	+0.6	+4.3	▲2.0	▲0.4	+0.5	+0.1	+1.9	+0.1		
コンセンサス								▲0.7		
DIR予想								▲0.4		
生産予測調査									+6.4	▲4.2
補正值(最頻値)									+3.1	
出荷	▲1.1	+3.8	▲1.5	▲0.9	+1.3	+0.5	▲0.2	+2.2		
在庫	+0.6	▲0.8	+0.3	▲1.8	▲0.3	▲1.1	+2.8	+0.5		
在庫率	+1.3	▲4.6	+2.0	▲0.7	▲0.9	+0.7	+4.1	▲1.7		

(注) コンセンサスは Bloomberg。

(出所) Bloomberg、経済産業省統計より大和総研作成

【生産】生産用機械工業や無機・有機化学工業などが増産し、4 カ月連続で上昇

2026 年 7 月の生産指数は前月比+0.1%と、コンセンサス（同▲0.7%、Bloomberg 調査）を上回り、4 カ月連続で上昇した。経済産業省は基調判断を「一進一退」に据え置いた。

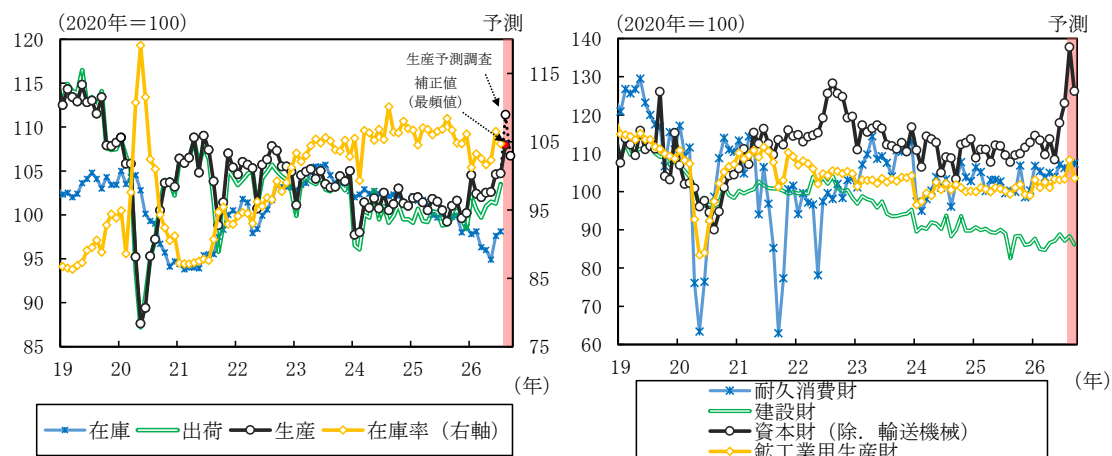
生産指数を業種別に見ると、15 業種中 10 業種が前月から上昇した。生産用機械工業（前月比+5.1%）は 2 カ月連続で上昇した。品目別では、AI 関連製品である半導体製造装置（同+10.7%）が増産となった。フラットパネル・ディスプレイ製造装置（同+97.7%）なども増産となった。経済産業省「鉱工業出荷内訳表」によると、生産用機械工業は輸出向け（同+10.7%）、国内向け（同+8.2%）ともに上昇した。無機・有機化学工業（同+6.0%）は 3 カ月連続で上昇した。品目別では、合成ゴム（同+21.7%）やポリプロピレン（同+10.5%）などが増産となり、3～4 月の落ち込みから持ち直した。電子部品・デバイス工業（同+2.6%）では、モス型 I C（メモリ）（同+53.1%）といった AI 関連製品が増産となり、2 カ月ぶりの上昇となった。電子回路基板（同+2.6%）なども増産となった。一方、輸送機械工業（除. 自動車工業）（同▲4.7%）や金属製品工業（同▲3.2%）など 4 業種は前月から低下した。輸送機械工業（除. 自動車工業）では航空機用発動機部品（同▲12.3%）などが、金属製品工業では橋りょう（同▲46.9%）などが減産となった。なお、電気・情報通信機械工業は横ばいだった。

財別では、建設財（前月比▲1.9%）と非耐久消費財（同▲0.4%）、耐久消費財（同▲0.8%）は低下した一方、資本財（除. 輸送機械）（同+4.4%）と生産財（同+0.2%）は上昇した。

【出荷・在庫】出荷指数は輸送機械工業（除. 自動車工業）などを中心に 2 カ月ぶりに上昇

2026 年 7 月の出荷指数は前月比+2.2%と 2 カ月ぶりに上昇した。業種別では、輸送機械工業（除. 自動車工業）（同+40.4%）や石油・石炭製品工業（同+11.0%）など 15 業種中 12 業種が上昇した。財別に見ると、耐久消費財と建設財は低下した一方、生産財と資本財（除. 輸送機械）、非耐久消費財は上昇した。在庫指数は同+0.5%、在庫率指数は同▲1.7%だった。

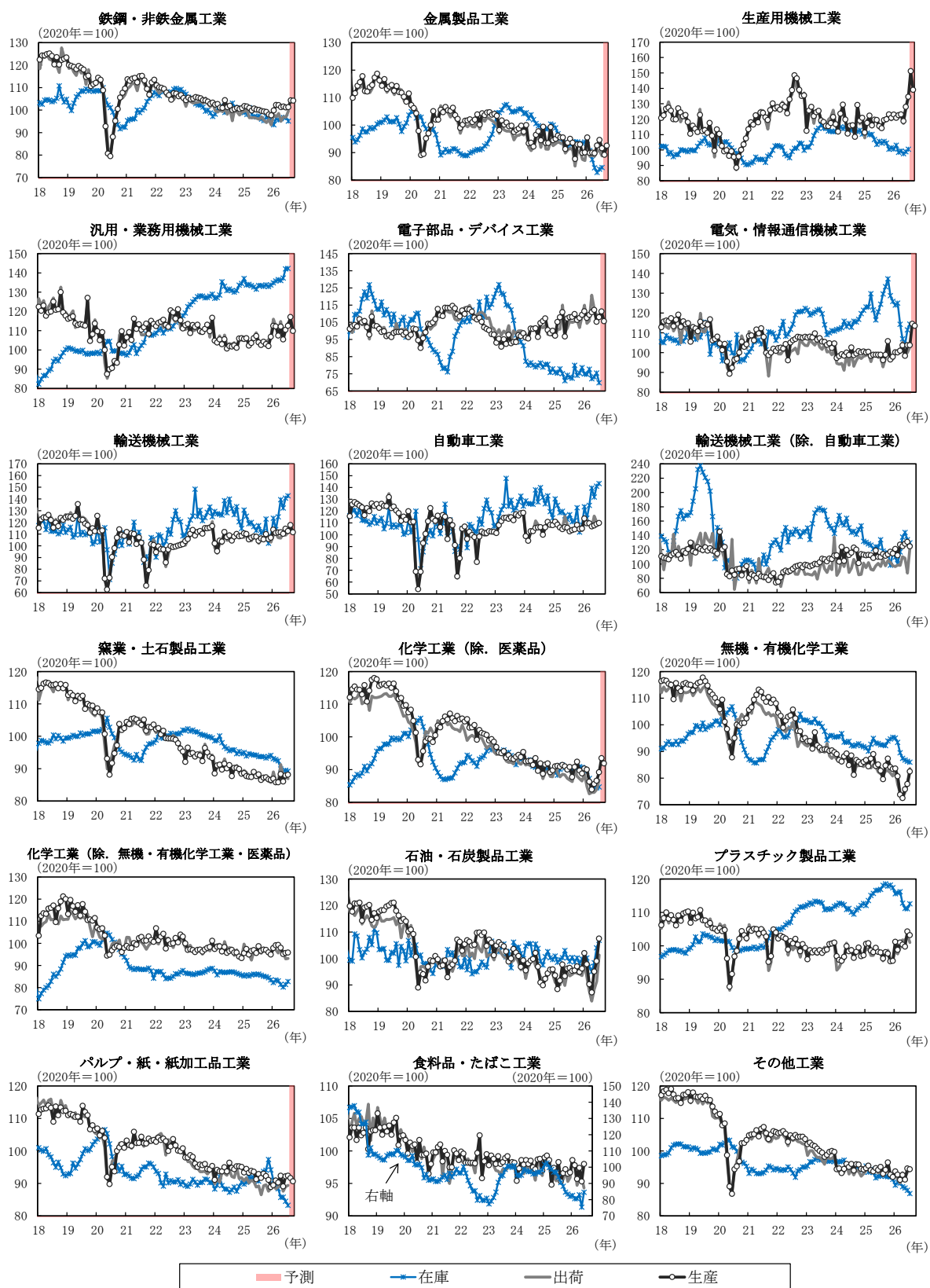
図表 2：鉱工業の生産・出荷・在庫（左）と財別の生産（右）



（注）生産指数の予測値（赤色）は、製造工業生産予測指数の補正值。その他シャドー部分の値は、製造工業生産予測調査による。

（出所）経済産業省統計より大和総研作成

図表 3 : 業種別 生産・出荷・在庫の推移



(注1) 生産指数の予測値は、製造工業生産予測調査。化学工業（除. 医薬品）の予測数値は、化学工業全体の予測数値を使用。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

【先行き】生産指数は横ばい圏で推移する見込み

先行きの生産指数は、横ばい圏で推移するとみている。AI 関連需要などが国内生産を押し上げよう。ただし、中東情勢をめぐる不確実性は依然として残っており、原材料の価格上昇や供給不安、当該地域向け輸出の停滞が長期化することで、生産が下振れするリスクには引き続き注意が必要だ。

AI 関連財の拡大は 2024 年から日本国内の生産を押し上げてきており、今後も下支え要因となる見込みである¹。世界半導体市場統計（WSTS）の 2026 年春季半導体市場予測によれば、半導体市場は 2026 年に前年比+89.9%と急拡大した後、2027 年も同+26.6%の高い伸びが見込まれている²。

原油や石油製品の代替調達が進んでいるものの、供給をめぐる不安は残る。供給不足に伴う買いだめ等が発生すれば価格は一段と上昇し、原材料不足を通じて生産の減少につながる可能性がある³。また、中東向け輸出の停滞を通じた減産リスクもあり、今後も引き続き注意が必要だ。

なお、7 月 28 日に熊本県を震源とする最大震度 7 の大地震が発生した。製造業が集中する同県では、一部工場で生産が一時停止されたが、半導体工場や自動車工場などでは早期に生産を再開する動きが広がった⁴。ただし、経済産業省では今回の被災企業の詳細を十分に把握できていないとしており、影響については慎重に見極める必要があるとの認識を示している⁵。今後の状況を引き続き注視したい。

製造工業生産予測調査では、8 月の生産指数は前月比+6.4%と増産が見込まれる。業種別では 11 業種中 8 業種が上昇する見通しだ。生産用機械工業（同+12.4%）や電気・情報通信機械工業（同+10.4%）、輸送機械工業（同+4.6%）などの上昇が見込まれる。生産指数全体の計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）⁶で見ると、8 月は同+3.1%と上昇が見込まれる。

9 月の生産指数は前月比▲4.2%となる見込みだ。業種別では 11 業種中 10 業種が低下する見通しだ。生産用機械工業（同▲8.0%）や輸送機械工業（同▲5.3%）、電子部品・デバイス工業（同▲5.1%）などの減産が見込まれる。

¹ 詳細は、神田慶司・秋元虹輝・菊池慈陽・横田凱「[日本経済見通し：2026 年 6 月](#)」（大和総研レポート、2026 年 6 月 23 日）を参照。

² WSTS「[Global Semiconductor Market Surges Beyond \\$1.5T 2026](#)」（2026 年 6 月 2 日）

³ 詳細は、畑中宏仁「[ナフサ問題がもたらす日本経済の不安要素](#)」（大和総研レポート、2026 年 6 月 15 日）を参照。

⁴ 「[熊本地震 28 日で 1 カ月 熊本・鹿児島で人流 5～6 割減、半導体は早期復旧](#)」（日本経済新聞 電子版、2026 年 8 月 27 日）、「[トヨタ、日産の九州工場が 6 日に再開 熊本地震で停止の拠点に再稼働の動き広がる](#)」（産経新聞、2026 年 8 月 5 日）

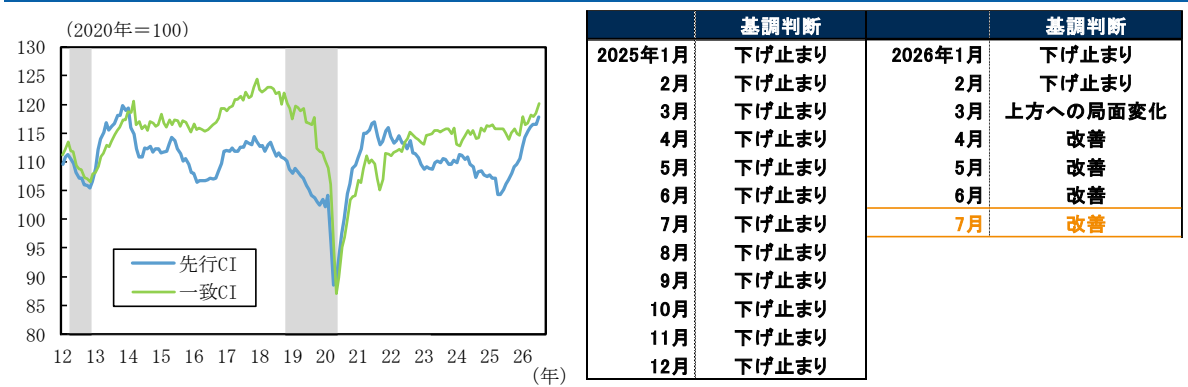
⁵ 「[鉱工業生産 7 月は 0.1%上昇、4 カ月連続プラス 判断据え置き](#)」（ロイター、2026 年 8 月 31 日）

⁶ 生産計画は生産実績よりも上振れした値となることが多いため、生産指数全体の計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）が公表されている。

【26 年 7 月景気動向指数】先行 CI、一致 CI ともに上昇を見込む

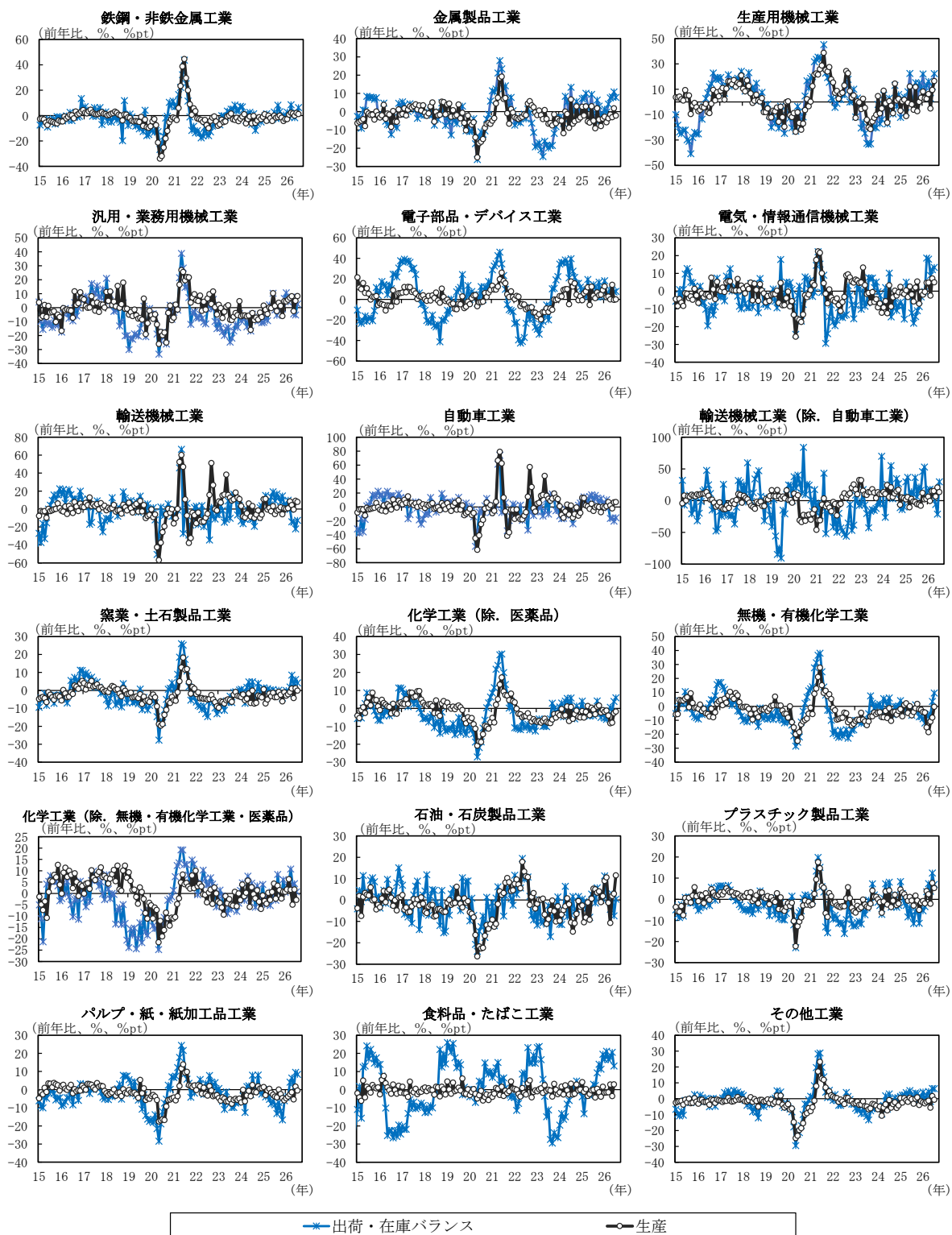
鉱工業指数の結果を受けて、2026 年 9 月 7 日に公表予定の 7 月分の景気動向指数は、先行 CI が前月差+1.4pt の 117.9、一致 CI が同+1.6pt の 120.1 と予想する（図表 4）。先行 CI では構成指標のうち、鉱工業用生産財在庫率指数（逆サイクル）や消費者態度指数などが前月から改善した。一致 CI では構成指標のうち、投資財出荷指数（除輸送機械）や商業販売額（小売業）（前年同月比）などが改善した。この予測値に基づくと、2026 年 7 月の基調判断は機械的に「改善」に据え置かれる。

図表 4：景気動向指数（先行 CI、一致 CI）と基調判断の推移



（注）左図の直近は大和総研による予測値。シャドーは景気後退期。2026 年 7 月の基調判断は大和総研予想。
（出所）内閣府統計より大和総研作成

業種別 出荷・在庫バランスと生産



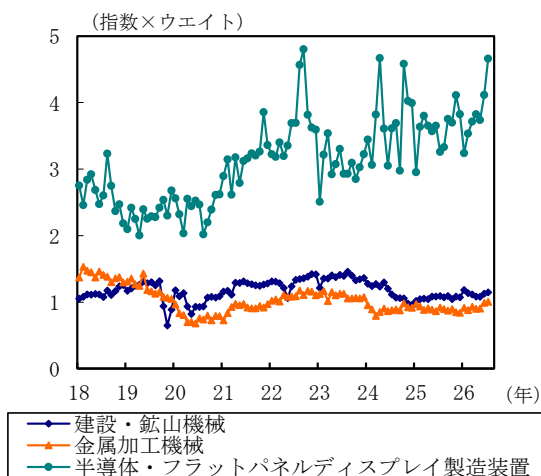
(注1) 出荷・在庫バランス＝出荷前年比－在庫前年比。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

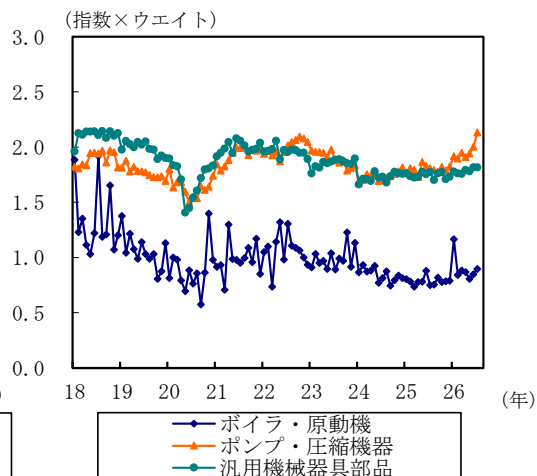
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

主要産業の生産動向(季節調整値)

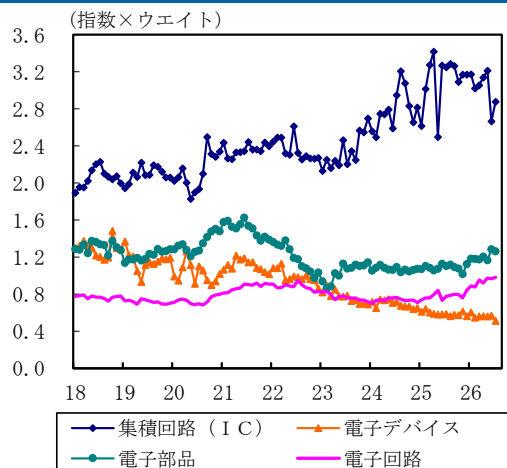
生産用機械



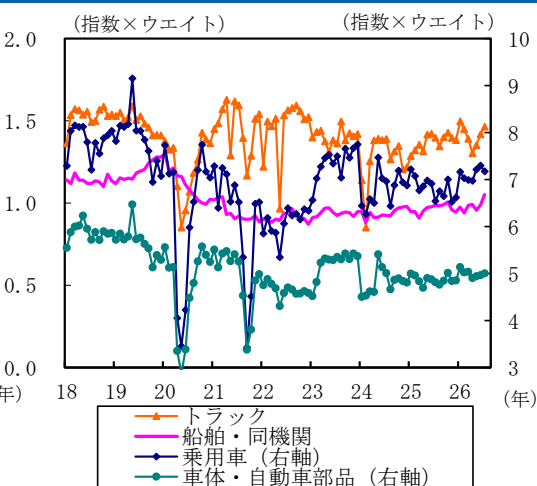
汎用・業務用機械



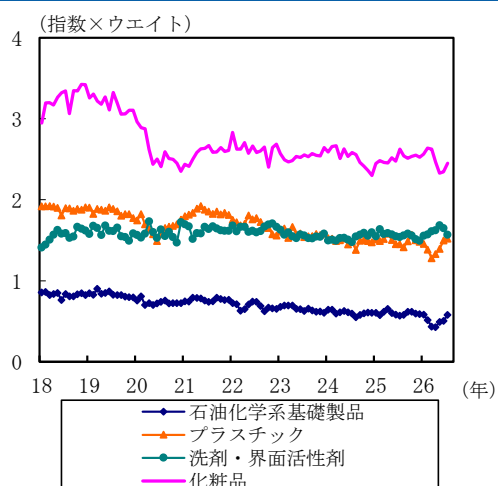
電子部品・デバイス



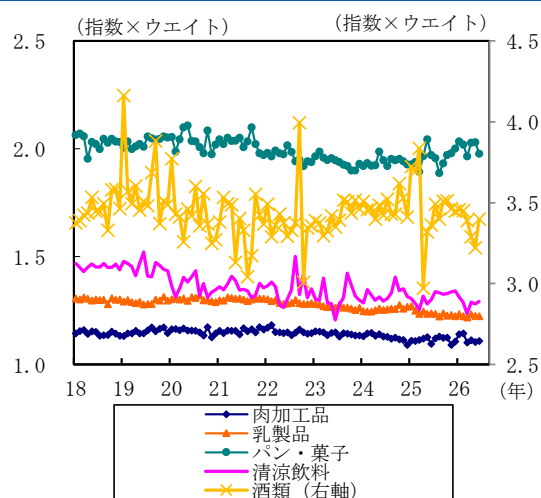
輸送機械



化学



食料品・たばこ工業



(注) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため、直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成